

平成28年6月29日

福岡医療専門学校
校長 藤瀬 武 殿

学校関係者評価委員会
委員長 下迫 勇夫

学校関係者評価委員会報告

平成28年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

- 1 学校関係者評価委員会 委員 (五十音順 敬称略)
 - ① 池田 悦子 医療法人社団正樹会 佐田整形外科病院 副院長
 - ② 上野 啓介 うえの整骨院 院長 (6期卒業生)
 - ③ 牛尾 健介 はり灸整骨院 地球の唄 院長
 - ④ 北原 孝子 朝日ホーム有限会社 顧問
 - ⑤ 木下 健一郎 有限会社ひかり (通所介護ライズ) 代表取締役
 - ⑥ 下迫 勇夫 福岡市立福岡西陵高等学校 元校長
 - ⑦ 松山 基光 松山整骨院 院長
 - ⑧ 山中 知愛 医療法人 西福岡病院 放射線科 科長

- 2 学校関係者評価委員会の審議スケジュール
 - (1) 自己点検・自己評価報告書の書面審議 (平成28年4月)
 - (2) 自己点検・自己評価委員による事前説明・ヒアリング (平成28年4月～5月)
 - (3) 授業見学・施設見学を実施 (平成28年3月～6月)
 - (4) 平成28年6月11日 (土) 学校関係者評価委員会開催

- 3 学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標 「教育活動・学修成果」について

- 目標に掲げている国家試験全員合格について、学科によっては不合格者がおり残念である。しかしながら、全学科をとおして合格率はトップクラスである。引き続き目標達成に向け学生一人ひとりに対応したきめ細やかな教育指導を期待する。
- 人間性の部分では、挨拶の声が小さいまたは挨拶をしない学生もいるため、誰でも積極的に挨拶ができるように指導して欲しい。

2 重点目標 「就職」について

- 就職率においては、全学科をとおして100%であるため、評価できる。しかし、医療機関の就職活動が早期化している現状がある。第一希望に就職できない学生もおり、学生の就職活動に関して学校側がきちんとフォローを実施して欲しい。

3 重点目標 「職業実践専門課程」について

- 文部科学省が認定する職業実践専門課程を通じた教育の質の保証・向上のため、積極的に医療機関と連携し、その主旨である実践的な教育活動への取り組みが理解できる。引き続き、次の段階である職業専門大学（仮称）の設置に向けて学校全体での取り組みを期待する。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価・意見	4段階 評価平均
<ul style="list-style-type: none">○ 教育理念は、建学の精神になっている。目標につながるように設定した、社会貢献につながる追加文を入れてはどうか。○ 即戦力を備えた医療人を養成する目標設定は良いが、現実には厳しいので学校にしっかりとした取り組みを期待する。○ 事前に理学療法科の実技審査を見学したが、現場に即してない部分があった。マニュアルに沿って行うため、型にはまってしまい臨機応変に対応できていない。試験に重点が置かれてしまい、応用力不足を感じた。○ 臨床の場は実は厳しく、何かを仕事を依頼した際、断ってしまうと機会が無くなり、次の人にその機会がいつてしまう。そのため、与えられた仕事を何でもこなす人材を育成して欲しい。○ 災害に対応できる人材育成が必要である。	3.5

2 学校運営

<ul style="list-style-type: none">○ 職業実践専門課程についてその主旨である実践的な教育活動に積極的な取り組みが理解できる。引き続き、次のステップアップである職業専門大学（仮称）の設置に向けて学校全体での取り組みを期待する。○ 診療放射線科は、4年制が主流である。現在は専門学校と大学の差別化はないが今後でてくるだろう。大学になれば、1年余裕がでてくるのでとても良い。○ 職業専門大学（仮称）は報道等ではネガティブの意見等があるが、大学進学を断念した人等学ぶ側としてはとても良い。特に柔道整復科・鍼灸科では、今までの既存のシステム（国試合格後、就職）だったが、一般教養等も学んだ学生達が業界を担っていく10～20年後が楽しみである。	3.6
---	-----

3 教育活動

<ul style="list-style-type: none">○ 電話応対や患者さんへの声掛け等の接遇が大切である。当院ではスタッフに対しそういった面を指導しているが、個人差がある。社会人経験の有無や家庭環境でも違いがある。基本的な挨拶・言葉遣い・電話対応・立ち振る舞い等、医療人としてきちんとできれば、それが即戦力となる。応用は後からでいい。○ 元気な挨拶をする学生が少ない。誰でも積極的に挨拶をするようになって欲しいので学生が校門で挨拶運動をしてはどうか。○ 教員は学会や研修に参加後、報告会や記録等をきちんと残した方がよい。○ 学生は勉強で一生懸命覚えても国家試験の勉強の際は忘れてしまうので、定着させて欲しい。	3.7
---	-----

4 学修成果

<ul style="list-style-type: none">○ 学生の就職に関しては、学校側は深く関与しない専門学校がある。在学中はフォローし、テストで高得点でも就職活動で本領を発揮できず、第一希望に就職できない学生もいる。きちんと就職活動について学校側がフォローをして欲しい。○ 柔道整復科・鍼灸科では入学前と卒業時と目標が変わってしまう場合がある。スポーツトレーナーを目指し入学しても、途中で挫折しやすい職種である。しかし今回の JATI の合格 100% はとても良いことであり、嬉しい気持ちになった。ただ国家試験に合格するだけでなく、その先の目標達成のためのモチベーション向上にもつながっている。	3.1
---	-----

5 学生支援

<ul style="list-style-type: none">○ 教育訓練給付金制度は、学び直しにはとても良い制度である。○ 就職課の活動強化については、診療放射線技師が不足している施設（特に女性）も多くあるため、学生には単に総合病院だからという一元的な考えではなく、多様な考え方や、自分の意思を持って決定できるようにしてほしい。○ 退学率の低減については学生が職業を理解することも重要であり、今年度より診療放射線科においては、撮影技術学を 1 年前期に移動させたことは職業理解だけでなく解剖の重要性を認識させるのにも有用だと思う。○ 三者面談等を実施し、保護者と密接に連携を図ることはすばらしいと思う。	3.6
--	-----

6 教育環境

<ul style="list-style-type: none">○ 卒業後は海外の大学・病院等で研修する機会があまりないため、学校生活で海外研修の実施は大変魅力的であり深く共鳴した。○ 診療放射線科では新たな装置（FPD）を導入し、病院の実状に合わせることは良いことである。○ 以前に比べ、良く研究して様々な取り組みを実施していると思う。	3.6
---	-----

7 学生の募集と受入れ

<ul style="list-style-type: none">○ 入学選考方法については、社会人に限らず学生が受験しやすいようにすることは良いことである。○ 学生募集の観点からも JATI の資格取得は学校の特色としてさらにアピールしていかなければならない。○ 放射線科の定員を 100 名へ増加することについては、実習先の確保等が大変だろう。また、現在の水準を維持したまま教育を行うためには教員数の増加を含めて考えなければならない。	3.8
--	-----

8 財 務

特になし	3.8
------	-----

9 法令等の遵守

<ul style="list-style-type: none">○ 外部メモリ媒体の使用においては、規則を厳しくしても遵守しない人がいては意味がないため、今後もルールの徹底が必要である。	3.9
---	-----

10 社会貢献・地域貢献

<ul style="list-style-type: none">○ ボリビア留学生の受け入れやトレーナー活動は、学校の特色として積極的にアピールするべきである。	
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校関係者評価委員の立場としては、学生一人ひとりにきめ細やかな対応・指導を期待したい。また、学校として地域社会や住民へのさらなる貢献と還元を期待したい。 ○ 実践力を備えた人材を社会に輩出していくことが大切であるが、就職先の施設等からも良い評価を受けており、社会貢献を着実に果たしている。 ○ 学生が来ることで書店、飲食店等の活性化につながるため、職業専門大学（仮称）の設置は周辺地域も期待している。若者がいるだけで、文教区として雰囲気が明るくなる。特に医療系の学校は安心感がある。 	3.3
---	-----

11 まとめ

各評価項目の評価は、平均3.6（4段階評価）であり、概ね高水準が維持されている。また、教育の質の向上のため、職業実践専門課程や新たな教育機関の設置に向けて学校全体が一丸となり、積極的に取り組んでいることがよく理解できた。今後も医療機関との連携や教職員の質向上に対し、積極的に取り組んで欲しい。

しかし、昨年度に意見した学生の挨拶について今年度も意見がでている。今後は、挨拶運動等を実施し、さらなる人間性の育成についても期待する。